

海外派遣研修事業を終えて 学び、そして夢に向かって ～報告会より～

9月10日(日)、南魚沼市役所で、派遣生が研修の中で印象に残った写真を映しながら報告発表を行いました。報告会では発表の内容に対し、ほかの派遣生や来場した保護者などがスマートフォンを使って感想を入力し、その場でスクリーンに映して共有しました。派遣生たちの発表と感想の一部を紹介します。

松田 夏穂 (大和中学校)

「自分を大切に、自分の意志を伝えることは自分の成長に繋がること」「やりたいことは、やって失敗しても興味があることは継続すること」を教わった。

渡邊 夏央 (大和中学校)

留学生の話から、目標に向かって行動に移すことが大切だと思った。世界には知らないことが多い。今後は視野をもっと広く持ちたい。

笠原 結 (八海中学校)

アメリカン大学を見学し、海外で学びたいという気持ちが強まった。派遣を通して、自分の将来の夢がはっきりした。

野澤 樹季 (八海中学校)

石兼大使の話で「すべての問題は絡み合っている」との言葉が印象的だった。教育という側面から問題に手をつけることが重要だと思った。

桑原 つぼみ (八海中学校)

アメリカン大学で見た、階段で勉強できるスペースが新鮮だった。留学生の茂木さんの話を聞いて、大学へ進学したいという気持ちが芽生えた。



アメリカン大学

9.11メモリアルミュージアム

福田 名菜 (八海中学校)

9.11メモリアルミュージアムで写真や動画を見て苦しくなった。今生きていることに感謝して、精一杯生きようと思った。

富士野 美幸 (六日町中学校)

キング牧師記念碑を訪れ、今もなお差別があることがわかり衝撃だった。差別をなくすために自分たちが伝えていかななくてはならないと思った。

小林 咲月 (六日町中学校)

アーリントン墓地を見て、戦争の悲惨さと残酷さを感じた。総領事の話をして「多国文化を親しみ、尊重し合うと平和は保たれる」と思った。

室橋 スミレ (塩沢中学校)

9.11メモリアルミュージアムでは、悲惨な事件の記録を目の当たりにした。このようなことが起こらないように自分にもできることを考えたい。

井上 陽南 (六日町中学校)

一つひとつは小さいことでも、世界の平和のためにできる取り組みをしたい。

白井 紗那 (秀明中学校)

米国人へ日本の魅力を伝えるべく総領事館がさまざまな取り組みをしていることを知った。自分も将来、日本と世界を結ぶ働き方ができるのではないかと考えた。

杉山 誇和 (塩沢中学校)

9.11メモリアルミュージアムの展示物からあふれる恐怖と悲しみを感じた。目を逸らしたい問題に向き合いたい。自分にできる小さなことでも世界を明るくできるのではないかと考えた。